



# 三原台中だより

令和8年1月15日発行  
練馬区立三原台中学校  
校長 山崎 二郎



「本年もよろしくお願ひいたします」

校長 山崎 二郎

令和8年（2026年）が幕を開けました。昨年中、保護者・地域の皆様には、様々な場面においてご支援、ご協力いただきありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。冬休みを終え、生徒たちが久しぶりに登校した朝、校門や昇降口で交わされる挨拶や友達との再会を喜ぶ笑顔からは、新年ならではの清々しさと前向きな気持ちが感じられました。

さて、毎年1月2日、3日には、お正月の風物詩ともいえる「箱根駅伝」が開催されています。「箱根駅伝」は、東京の大手町から箱根までの往復約217kmを10人の選手が襷をつないで勝負を競い、毎年多くのドラマが生まれています。1区から10区まで襷をつなぐためには、個人の気持ちだけではなく、給水をサポートしてくれる仲間も含め、チーム全員の力がなければ走り切れません。仲間を信頼し支え合うこと、チームワークや絆の素晴らしさを教えてくれます。今年も青山学院大学が大会新記録で3連覇を達成しましたが、どのチームも襷に込められた思いを背負って力強く走る姿や限界を超えて必死に襷をつなごうとする姿などに、多くの人たちが感動したと思います。

私が箱根駅伝の魅力の一つとして思うことに「選手一人一人の個性を最大限に活かす」ことがあります。長距離の区間、海からの風が強い区間、山を登る区間、山を下る区間など様々なコースに合わせた選手起用が勝負のポイントになります。個々の良さを引き出し生かす、多様だからこそ強い、これは様々な集団にも言えることだと思います。

また、箱根駅伝だけでなく様々なスポーツにおいて、近年注目されていることに、選手の主体性を重んじた練習があります。指導者の指示を待つのではなく、様々な状況を自分で判断するためには、自己の目標を設定し、それを達成させるために何をすれば良いか選手自身が考えて努力を続けるという姿勢が大事になります。「一人一人の個性を最大限に活かす」、「主体性を大事にする」ということは、今の学校現場にも通じる大事な視点だと思いました。



3学期は令和7年度の集大成の学期になります。3年生の皆さんには、いよいよ進路決定という大きな節目を迎える時期となりました。不安や緊張もあるかと思いますが、これまで積み重ねてきた努力を信じ、最後まで走り抜けてほしいと願っています。1・2年生の皆さんも、次のステップへの準備を始める時です。一日一日を大切に過ごし、今の学年のまとめをしっかりと行えるようにしてください。本年も三原台中生の大きいなる飛躍を願っています！

*Congratulation!!*

★税についての作文



・東京納税貯蓄組合総連合会会長賞（3年）

★バレーボール部



・第3ブロック交流会 優秀選手賞（2年）